



今、日本で、世界で、起きていること

東北福祉大学教授 有田 和正

中国製ギョーザで食中毒が？

今年になって日本列島は、中国産の商品の使用問題で幕を開けた。2008年1月、中国製のギョーザを食べた千葉県と兵庫県の10人が、下痢や吐き気に見舞われ、日本中が大騒ぎになった。10人のうち5歳の子どもら3人が一時重体になった。

調査の結果、中国製の冷凍ギョーザから有機リン系のメタミドホスとジクロロホスという農薬成分が見つかり、日本たばこ産業（JT）の子会社の「ジェイティフーズ」が輸入した製品の自主回収を始めた。

ギョーザを作っていたのは、中国ホーベイ（河北）省シーチャチョワン（石家荘）市にある「天洋食品」という国営会社である。シーチャチョワン市からテンチン（天津）に運ばれ、日本の大阪や横浜の港に送られていた。

学校給食にも使われており、献立が急きょ変更されることになった。ファミリーレストランでも中国で調理した加工食品の使用を中止するところもでた。その後、問題になったギョーザ以外の食品を使い始めたところもある。スーパーマーケットでは、中国製のギョーザなどの販売をやめ、売った客からの返品を受け付けた。

厚生労働省は、「安全が確認されるまでの間、冷凍ギョーザだけではなく、天洋食品の全製品の販売を中止するように」と業者に要請した。

警察が捜査をしているが、農薬はギョーザがつけられた中国で混入の可能性が高いという。しかし、中国政府は工場内で混入の可能性はないと主張し、平行線が続いた。中国製の食品や製品は安全性の面で問題が多いと、これまでもたびたび指摘されてきた。しかし、しっかりした検査はなされずじまいだった。

今回はギョーザの製造が、2007年10月20日のものから中毒が発生し、後に違う製造日のものからも農薬成分が検出された。厚生労働省の調査によると、2月1日現在で、全国で165人が不調を訴えているという。なお、これまで天洋食品は模範工場といわれていた。

この事件後の影響が、農林水産省の調査で明らかになった。



ギョーザ出荷の流れ



『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』 p.47

☞ * 地図帳の中国の地図からテンチン（天津）を探してみましょう。また、大阪とどのくらいはなれているのかを考えてみましょう。

